

令和6年度第1回鳥取県教育審議会生涯学習分科会兼鳥取県社会教育委員会議の概要について

令和6年7月31日
社会教育課

- 1 日 時 令和6年7月2日(火) 午後1時30分から午後3時まで
- 2 場 所 県立倉吉体育文化会館 中研修室
- 3 出席者 別紙のとおり
- 4 会議概要

(1) 議 事

ア 令和6年度社会教育関係団体への補助金について(追加)

社会教育法第13条に基づき、令和6年6月補正予算(要求中)で日本ボーイスカウト鳥取連盟へ交付予定の補助金について事務局の説明を聴取し、承認された。

(事務局の説明概要)

- ・日本ボーイスカウト鳥取連盟が第13回日本アグーナリー(国際障がいスカウトキャンプ大会)に指導者や障がいのある隊員等を派遣することとなったことに伴い、臨時的に補助金を交付することについて予算要求中である。

(主な意見等)

- ・補正予算で対応することとなった経緯を教えてください。
→ [事務局回答] 当該大会は通常4年に1回開催しているが、前回は新型コロナウイルスの影響により開催されず、今回8年ぶりとなる。本年2月に行われた関係者向けの説明会で内容を確認してから参加することを決めたため、当初予算に間に合わなかったもの。

イ 「鳥取県子どもの読書活動推進ビジョン(第5次計画)」の骨子(案)について

「令和5年度子どもの読書活動に関するアンケート調査」の結果、及び「鳥取県子どもの読書活動推進ビジョン(第4次計画)」の成果と課題を受けて事務局が作成した同ビジョン第5次計画(案)の骨子について、特に人材育成や読書活動の普及啓発に関する意見を伺い、今後策定する計画に反映していくこととした。

(事務局の説明概要)

- ・アンケートの結果、前回(平成29年度)と比較して、「読書が好き」と回答した児童生徒の割合が減っていたり、不読率(1ヶ月に1冊も本を読まない割合)が増加したが、全国調査と比較すると、決して鳥取県の子どもたちが本を読まないというわけではない。
- ・県の教育振興基本計画や社会情勢等を鑑み、第4次までの基本理念「未来を担う子どもの豊かな成長を促す読書活動の推進」を、第5次計画では、「すべての子どもが読書に親しみ、心豊かな経験を通して生きる力を育む」と変更することとした。
- ・第5次計画の取組として、幼稚園教諭や保育士、図書館職員や学校司書、さらには公民館の職員等、子どもの読書を支える人材の資質向上や、若者が体験的に読み聞かせを行う取組等を推進する必要があると考えている。

(主な意見等)

- ・インターネットが普及し、子どもたちは読書よりもSNSに時間を費やしているのではないかとアンケートでは調査しているか。
→ [事務局回答] 本を「全く読んでいない」と答えた子どもたちについて理由を尋ねたところ、「ゲームやテレビ、インターネットが楽しいから」と答えた子どもの割合も多かった。
- ・第5次計画の基本理念はとても良い。この理念を子どもの読書に関わる方が意識して取り組んでいただきたい。
- ・公民館にも本はたくさんあるが、職員に専門知識がないため本の整理ができておらず、子どもたちは公民館で本を読むというところには至っていない。学校司書と連携することで、専門知識を取り入れることができたらと思う。
- ・小中学校の学校司書については、司書資格を問わなかったり、会計年度任用職員であったりすることもある。資質向上を図るにあたっては、処遇についても検討が必要ではないか。
- ・市町村が行っているブックスタート事業について非常に手ごたえを感じているが、就学時のつながりが重要と考えるので、第5次計画で具体的に示してほしい。

- ・近隣の大学で司書教諭の資格を取得するための講座が開かれなくなり、今後、人材確保が課題になると思われることから、第5次計画において検討していただきたい。
- ・小学校低学年から学校図書館の利用を呼び掛けていると、高学年になっても図書館利用が定着していると感じる。
- ・小学校高学年の図書委員会の児童が低学年に読み聞かせをする小学校もあるし、また、家庭科の授業や職場体験での保育園との交流等、学校においても子どもが読み聞かせを体験する機会はある。そのような経験を通して、子どもたちも読み聞かせに興味を持つと思う。
- ・図書委員会と司書教諭、学校司書が協力してイベントを開催して、子どもたちが図書館を利用するよう意図的に取り組んでいる小学校もある。
- ・1人1台端末が整備されたことで、学校図書館の利用が少なくなっていることはないか。
→ [委員回答] 図書館の資料を使いながらタブレットでも調べてみる等、タブレットと図書館を併用するのがよいのではないか。また、端末を使って学校司書が本の新刊紹介をすることもできると思う。
- ・園で保護者に絵本コーナーを開放することがあるが、借りて帰る保護者が半数以上ある。呼びかけをしたり、門戸を広げていくことが必要だと感じている。また、子どもと一緒に絵本を読んで、子どもが楽しいと思う気持ちを親子で共有すること、保護者も絵本の世界が楽しいと思える経験が大事だと思う。
- ・子どもの読書に関心がある保護者と無い保護者がいる。関心の無い保護者に対して絵本の良さを伝えるために、県が作成したパンフレットも活用できたりするのはありがたい。
- ・計画を策定しても、各家庭や学校で実行していくのは難しいと感じているが、県の取組として、司書のフォローアップもよくできていると思う。
- ・子どもたちの文字離れが進んでいると思う。本1冊を読み切れる体験を積み重ねることがよいのではないか。また、放課後に図書館を開放するという取組ができないだろうか。
- ・人材を配置するだけでなく、様々なアイデアを出せる人をどう育成していくかが問われるのではないか。優良事例を知っていただく機会を設けたり、県から積極的に情報提供をする必要もあるのではないか。
- ・高学年が読書に親しむ方法として、朗読、ストーリーテリング、ブックトークが非常に好評であった。

(2) 事務局報告

コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進に関する令和6年度の主な取組状況について
本会の建議「地域の特性を生かした持続可能なコミュニティ・スクールと地域学校協働活動に向けて」(令和4年9月22日)を受け、事務局の取組について報告した。

(事務局の説明概要)

- ・関係各課が事業を実施するとともに、所属を超えた「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動プロジェクトチーム」による取組を展開し、啓発動画や地域と学校の連携・協働の状況が分かる目安表を作成する等、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の充実に努めている。

(主な意見等)

- ・県の教育振興基本計画で、公立学校においてコミュニティ・スクールを100%導入することを目標としていたが、達成はされたか。
→ [事務局回答] 令和5年度末時点では未達成であったが、令和6年5月1日時点で100%導入された。

(3) その他

事務局から、配布資料(県立生涯学習センター発行のリーフレット、チラシ、冊子)について紹介した。

令和6年度第1回鳥取県教育審議会生涯学習分科会兼県社会教育委員会議名簿

氏名	所属・職名等	備考
池田 緑	鳥取県子ども読書アドバイザー	
川口有美子	公立鳥取環境大学環境学部准教授	会長
小林まゆみ	鳥取県連合婦人会	欠席
清水 秀満	鳥取市美保南公民館長	副会長
清水まさ志	鳥取大学地域価値創造研究教育機構准教授	欠席
高尾 裕子	鳥取県PTA協議会会長	
竹本 幸子	北栄町立北条こども園長	
中田 寛	倉吉市教育委員会教育長	
平尾 岳文	新日本海新聞社総務局総務部長	欠席
福田 京子	日本ボーイスカウト鳥取連盟副理事長	
福田 範子	日南町教育委員会事務局教育課総括室長兼社会教育室長	
山田 美奈	元智頭町地域おこし協力隊	欠席
淀瀬 由美	倉吉市立上北条小学校長	
米田 速史	伯耆町老人クラブ連合会会長	